

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.14

2014

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.14

2014



中表紙

形之山から産出したタネガシマニシンの化石（種子島開発総合センター「鉄砲館」収蔵標本）

年報 No.14 目次

1	総合研究博物館の組織－2014年度－	福元しげ子	(1)
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2014年度の企画事業概要	橋本達也	(3)
3	2014年度の企画事業		
	1. 研究交流会		
	第19回研究交流会 災害と文化遺産3 地震災害の歴史を読み解く－地震考古学への招待－	橋本	(4)
	2. 市民講座		
	(1) 第26回市民講座 ダイオウイカ、奇跡の遭遇－トワイライトゾーンの海－	本村浩之	(5)
	(2) 第27回市民講座 現代によみがえる130万年前の種子島の生き物たち	鹿野和彦	(5)
	3. 公開講座		
	(1) 第14回自然体験ツアー 火砕流堆積物観察会 巨大噴火の謎を解く	鹿野	(6)
	(2) 第14回公開講座 端縫いー境界を接ぐ	落合雪野	(6)
	4. 第14回 特別展 現代によみがえる生き物たち－種子島にゾウがいた頃－	鹿野	(7)
	5. その他の活動		
	(1) 企画展 鹿児島県の魚を調査する～海にはどんな魚がすんでいるの?～	本村	(8)
	(2) 特別講演会 海のナマズ「ゴンズイ」の超能力	本村	(8)
	(3) International Seminar of Biodiversity	鈴木英治	(8)
4	常設展示室	上村 文	(10)
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート 5. ボランティア活動		
	6. 常設展示室 展示品目録－2014年度－(2013年度からの変更点)		
	7. 桜島・錦江湾ジオパークの看板設置 8. 常設展示室の課題		
5	教育活動		
	1. 共通教育「博物館へのいざない」	橋本	(14)
	2. 博物館実習	各教員	(14)
	3. 共通教育ボランティア論	福元	(15)
	4. 教員免許更新講習	本村・橋本	(15)
	5. インターンシップ	橋本・福元・本村	(16)
6	出版・広報	橋本	(16)
7	ボランティア活動	福元・本村・橋本	(17)
8	鹿児島バーチャル博物館の構築	鹿野	(17)
9	標本管理活動		
	1. 植物標本室	落合	(18)
	2. 標本の整理・登録・利用	橋本・福元	(18)
	3. 脊椎動物標本の利用状況	本村	(19)
10	2014年度 専任教員の活動業績	各教員	(20)
11	2014年度 ポスター		(29)
12	企画展 展示ポスター	本村	(31)

1 総合研究博物館の組織－2014年度－

館長	鈴木 英治	理学部
研究部		
資料研究系	鹿野 和彦 教授	地質学・火山堆積学
	橋本 達也 准教授	考古学
	福元しげ子 助手	生物学
分析研究系	落合 雪野 准教授	民族植物学、東南アジア地域研究
	本村 浩之 教授	魚類分類学
事務補佐員	西元 暢子	
事務補佐員 (常設展示室)	上村 文	
技術補佐員	内村公大	
研究支援者	星野三香	
事務局	研究国際部研究協力課研究支援係	

運営委員 (総合研究博物館専任教員を除く)

法文学部	兼城 糸絵 准教授	教育学部	瀬筒 寛之 講師
理学部	鈴木 英治 教授	医学部	大重 匡 准教授
歯学部	上川 善昭 教授	工学部	鯉坂 徹 教授
農学部	朴 炳宰 准教授	水産学部	寺田 竜太 准教授
共同獣医学部	松元 光春 教授		
医歯学総合研究科	後藤哲哉 教授		

兼務教員 (敬称略)

地球科学分野

森脇 広	法文学部 (自然風景の変化に関する研究)
松井 智彰	教育学部 (灰斜長石巨晶の鉱物学的研究)
井村 隆介	理学部 (活断層と活火山の活動史とその災害に関する研究)
河野 元治	理学部 (鹿児島県の鉱物と地質科学)
小林 哲夫	理学部 (火山地質、噴火現象、テフロクロロジー)
中尾 茂	理学部 (始良カルデラ周辺の地殻変動に関する研究)
仲谷 英夫	理学部 (地質古生物標本に基づく生命と地球環境の変遷史)
山城 徹	工学部 (東シナ海における黒潮流速の変動特性)
安達 貴浩	工学部 (鹿児島湾における水環境に関する研究)

生物学分野

河合 溪	国際島嶼研 (南西諸島における海産無脊椎動物の種分化)
山本 宗立	国際島嶼研 (島嶼部における農学・農耕文化の研究)
相場慎一郎	理学部 (多雨林の植物種多様性)
鈴木 英治	理学部 (熱帯林の動態と更新・鹿児島県の植生)
宮本 句子	理学部 (陸上植物の生物多様性の解析)
佐藤 正典	理学部 (多毛類の分類学的研究)
富山 清升	理学部 (軟体動物の生態分類・生物地理)
一谷 勝之	農学部 (作物の遺伝的多様性)
遠城 道雄	農学部 (熱帯産ヤムイモ類の保存と形態および生理生態学的研究)
富永 茂人	農学部 (農業技術と農機具の進歩に関する研究)

- 中西 良孝：農学部 (在来家畜および再野生化家畜の保存と活用に関する研究)
 鈴木 廣志：水産学部 (十脚甲殻類の分類と生態)
 寺田 竜太：水産学部 (熱帯性海藻類の分類)
 増田 育司：水産学部 (有用魚類の資源生物学および資源管理)
 山本 智子：水産学部 (海洋生物の群集生態学的研究)

考古学・歴史学・民俗学分野

- 高津 孝：法文学部 (薩摩塔及び南西諸島現存礎石の研究)
 本田 道輝：法文学部 (九州と南西諸島の文化交流の研究)
 渡辺 芳郎：法文学部 (薩摩焼の考古学的研究)
 日隈 正守：教育学部 (日本中世諸国一宮制の研究)
 藤枝 繁：水産学部 (漂着物に関する研究)
 中谷 純江：国際戦略本部 (社会人類学、南アジア地域研究)

教育学・理学・学術情報学分野

- 森 邦彦：学術情報基盤センター (光情報処理、遺伝的アルゴリズム)
 有馬 一成：理学部 (タンパク質分解酵素アイソザイムの分子進化)
 富安 卓滋：理学部 (環境中における水銀の挙動)
 山本 雅史：農学部 (果樹類のアイソザイムおよびDNA分析)
 大西 佳子：医歯学総合研究科 (サイエンス・コミュニケーション)

学外協力研究者 (鹿児島大学総合研究博物館組織規程に従い学外の協力研究者を置く)

- 秋元 和實：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター准教授 (微古生物学、海洋環境学、海洋地質学)
 石畑 清武：鹿児島大学名誉教授 (熱帯園芸学、熱帯果樹に関する研究)
 稲田 博：霧島エンジニアリング (株) 調査役 (河川・砂防及び海岸工学)
 浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授 (地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究)
 江口 克之：首都大学東京准教授 (東南アジア地域に生息するアリ類の多様性生物学的研究)
 大木 公彦：鹿児島大学名誉教授 (地質学、古生物学・生物学的研究)
 大塚 裕之：鹿児島大学名誉教授 (層序学、古脊椎動物学)
 北村 訓子：東京大学大学院理学系研究科特任研究員 (地震の発生機構の解明)
 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授 (環境物理学、素粒子・原子核物理学)
 坂元 隼雄：(財)鹿児島県環境技術協会理事長、鹿児島大学名誉教授 (地球化学、分析化学、環境化学)
 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学教授 (魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究)
 鮫島 正道：鹿児島大学農学部客員教授 (動物形態学、野生動物保全生態学)
 土田 充義：NPO 法人文化財保存工学研究室理事長、鹿児島大学名誉教授 (日本建築史)
 塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授 (海産無脊椎動物の生殖と発生)
 西中川 駿：鹿児島県考古学会会長、鹿児島大学名誉教授 (動物考古学、動物解剖学)
 福田 晴夫：鹿児島県環境審議会副会長 (生物学、昆虫生態学)
 藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授 (木材の循環型社会・バイオマス等の活用による再生可能エネルギーの構築)
 堀田 満：鹿児島大学名誉教授 (植物系統分類・地理学、熱帯植物、有用・民族植物学の研究)
 丸野 勝敏：(鹿児島県産植物相の調査、絶滅危惧種の調査・データ収集)
 山下 智：鹿児島大学名誉教授 (魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学)
 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授 (タマバエ類の分類学的及び生態学的研究、昆虫と寄主植物の相互関係、地球温暖化が昆虫に及ぼす影響、インドネシア・クラカタウ諸島の生態遷移に関する研究)
 山根 正氣：鹿児島大学名誉教授 (東南アジア産アリ類の分類・生物地理)

第 27 回市民講座 現代によみがえる 130 万年前の種子島の生き物たち

2014 年 9 月 14 日（日）14：00～15：30

会場：鹿児島市中央公民館 3 階

講師：大塚裕之（元鹿児島大学総合研究博物館長）

2014 年 10 月 4 日（土）13：00～15：30 【台風 18 号接近のため中止】

「現代によみがえる 130 万年前の種子島の生き物たち」

講師：大塚裕之（鹿児島大学名誉教授）

「タネガシマニシンと形之山の魚類化石について」

講師：藪本美孝（北九州市立自然史・歴史博物館）

会場：西之表市種子島開発総合センター鉄砲館

第 14 回自然体験ツアー種子島で化石にふれる

2014 年 10 月 5 日（日）9:30～15:00 【台風 18 号接近のため中止】

案内者：大塚裕之・鹿野和彦・内村公大

見学予定地 西之表市形之山及び南種子町島間海岸

集合場所：「西之表市役所・保健センターすこやか」前

対象：小学生以上 40 名（小学生は保護者同伴）

参加費：無料（各自弁当持参）

第 14 回自然体験ツアー 火砕流堆積物観察会 巨大噴火の謎を解く

2014 年 12 月 21 日（日）9:00～16:00

場所：霧島市岩戸から春山原に至る道路沿いと、霧島市国分川原のシラス採取場

案内者：鹿野和彦・内村公大（鹿児島大学総合研究博物館）

3 2014 年度の企画事業

1. 研究交流会

第 19 回研究交流会 災害と文化遺産 3 地震災害の歴史を読み解く－地震考古学への招待－

2014 年 5 月 24 日（土）13:30～15:30 に郡元キャンパス共通教育 2 号館 211 号室において開催した。2012 年から続けてきた「災害と文化遺産」をテーマとする研究会の第 3 回目企画として、地震災害の歴史に焦点をあてて企画した。

講師の寒川旭氏（産業技術総合研究所客員研究員）は遺跡に刻まれた地震の痕跡を研究し、歴史



寒川 旭 氏



成尾 英仁 氏

上著名な地震から記録のない地震までその実像を明らかにする「地震考古学」という分野の開拓者である。とくに講師の明らかにしてきた南海トラフから発生する巨大地震の周期活動は、近い将来、鹿児島県内にも大きな影響を与えると考えられ、鹿児島で講演していただく意義は大きい。

また、成尾英仁氏（武岡台高校教諭）は寒川氏の研究成果を受けて、長年鹿児島で地震痕跡のフィールド調査を実施してきた。ここでは鬼界カルデラの爆発に伴う地震痕跡などを中心にその研究成果を簡潔に紹介いただいた。

両講師ともわかりやすい解説であったが、とくに寒川氏の自作マンガも用いた軽妙な話題の展開には学生を含むさまざまな世代の理解に有益であったろう。会場はほぼ満員の98名の参加があった。



第19回研究交流会

2. 市民講座

(1) 第26回市民講座 ダイオウイカ、奇跡の遭遇—トワイライトゾーンの海—

7月5日（土）に鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟2号館1Fの211教室で開催された。16世紀の大航海時代、海の魔物と恐れられていた謎の生き物クラケンのモデルと言われるダイオウイカ。これまで研究者やメディアが、生きているダイオウイカの深海での撮影を試みるが、すべて失敗に終わっていた。2012年夏、NHKと国立科学博物館、ディスカバリーチャンネルが共同で40日間におよぶ調査と撮影のプロジェクトが敢行された。その成果はダイオウイカと人類との世界初遭遇という快挙となり、2013年1月NHKスペシャル「世界初撮影！深海の超巨大イカ」で放映された。本市民講座では、国立科学博物館・コレクションディレクターの窪寺恒己氏をお招きし、プロジェクトの実態を、実際に参加した研究者の立場から紹介して頂いた。聴講者は91名であった。本講座の案内チラシにはイカ画家の宮内裕賀氏によるダイオウイカの絵が使用された。

(2) 第27回市民講座 現代によみがえる130万年前の種子島の生き物たち

第14回特別展「現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—」と地質情報展（後述）の関連行事として、2014年9月14日に鹿児島市中央公民館において大塚裕之氏（鹿児島大学名誉教授）を招いて標記の講演をお願いした。講演の内容は専門的であったが、定員48名の会場は満席で、14:00から15:30まで1時間半にわたって種子島形之山で発掘された数々の化石について語る講師の話聞いた。講演の後は、特別展を開催している鹿児島県立博物館に会場を移して講師自身の展示



第26回市民講座



窪寺 恒己 氏



第14回自然体験ツアー
岩戸火砕流堆積物を前に意見を交わし、観察する参加者

解説を聞いて理解を深めた。

この市民講座は9月27日に西之表市の種子島総合開発センター「鉄砲館」でも開催する予定だったが台風19号が接近したため中止した。

3. 公開講座

(1) 第14回自然体験ツアー 火砕流堆積物観察会 巨大噴火の謎を解く

約3万年前に鹿児島湾奥の始良カルデラから噴火したシラス（火砕流堆積物）を観察するツアーを2014年12月21日（日）に開催した。大きなシラス採掘場でシラスの特徴と広がりを観察して、火砕流がどのように噴出してその場所にもたらされたのか、そして、噴火がどのような規模だったのかを知ることがその目的である。参加者は30名で、鹿児島中央駅で西口に集合して9時にバスで鹿児島湾奥へと向かい、霧島市岩戸から春山原に

至る道路沿いと霧島市国分川原のシラス採掘場で火砕流堆積物の特徴とその意味についての解説を受けて、火砕流堆積物の広がりを確かめた。また、上野原縄文の森展示館で昼食を摂って火砕噴火と縄文遺跡との関わりについて学習した。年末の寒い1日ではあったが、参加者は寒さも忘れて初めて目にするシラスのヒミツを楽しんだ様子で、午後4時に鹿児島中央駅に無事到着して解散することができた。

なお、第14回自然体験ツアーは、種子島開発総合センター「鉄砲館」で開催される特別展開連行事として「種子島で化石にふれる」と題して9月27日に開催される予定だったが台風19号が接近したため中止した。

(2) 第14回公開講座 端縫い—境界を接ぐ

2014年6月7日土曜日、第14回公開講座「端縫い—境界を接ぐ」を開催した。講師は佐治ゆかり郡山市立美術館館長、会場はレトロフト Museo（鹿児島市名山町）であった。

佐治館長は、美術史や文化資源学を専門分野とする研究者であり、学芸員でもある。2006年に福島県立美術館で「ハギレの日本文化誌—時空をつなぐ布の力」展を企画開催されており、この展示の図録



第14回公開講座 写真1
ハギレのできた実物資料を展示する



第14回公開講座 写真2
講演する佐治ゆかり館長

をきっかけに、講演を依頼することにした。

広報用フライヤー（A4判両面カラー印刷）を製作し、4月17日から事前申し込み制で参加者を募ったところ、その直後から前日までに33名の申込者があった。開催当日には、欠席者3名と当日参加者1名がおり、実際の参加者は31名であった。

講座当日、会場には佐治館長が収集した実物資料13点が展示された（写真1）。ハギレを用いて日本各地で製作された長着や半襦袢、袋物などである。13時の開場とともに会場に入った参加者は、この展示資料を間近に観察しながら、開始までの時間をすごした。

13時30分から15時まで90分間、佐治館長の講演があった（写真2）。参加者はカラー図版入りのレジュメを参照しながら講演を聞いた。その概要は、以下の通りである。

- 1) 一枚の半襦袢から一ハギレへの関心
- 2) ハギレとは？ハギレであることの意味、多様性
- 3) ハギレから見えること
- 4) 布の特性—物質的特性、社会的特性
- 5) 継ぎ、接ぎの多義性
- 6) なぜ端を縫うのか？

15時から15時30分までは質疑応答の時間とした。参加者からは時間いっぱいまで、多数の質問があがった。また、「これまでハギレで繕うという行為は、貧しさゆえにしかたなくすること、恥ずかしいことのようにとらえていたが、まったく違うことがわかった」、「一枚一枚のハギレをあつめて、配置や形を考えてモノをつくっている。その技術やセンスに感心した」などの感想をのべる人がいた。接ぎの技法や素材の差異などは、写真では見分けにくいのが、実物資料を熟覧するとはっきりと理解できた。佐治館長が実物資料と照らし合わせながら、講演や質問への回答を進めてくれたおかげで、参加者にとって、理解度や満足度が非常に高い講座になったといえよう。

貴重なコレクションを提供して下さった佐治館長をはじめ、会場設営をサポートしてくれた永井友美恵さん（レトロフト Museo）とフライヤーのデザインを担当してくれた迫あゆみさん（スタジオベケベケ）に感謝したい。

4. 第14回 現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—

鹿児島大学附属中央図書館（8月25日～8月30日）、鹿児島県立博物館（9月4日～9月15日）、種子島開発総合センター（9月26日～10月24日）を巡回して標記特別展を開催した。この特別展は、大塚裕之氏（鹿児島大学名誉教授）が主導し西之表市教育委員会と鹿児島大学が中心となって昭和63年8月と平成元年8月に前期更新世の地層（増田層形之山部層）から発掘した「形之山化石群」

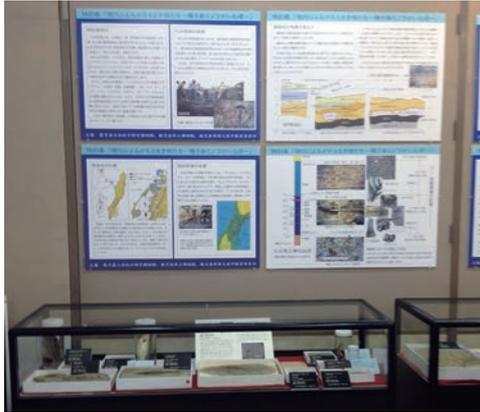


特別展展示風景
（鹿児島大学附属中央図書館）



特別展開会式直後に行われた展示解説
（鹿児島大学附属中央図書館）

第14回 特別展 現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—



タネガシマニン化石の展示（鹿児島県立博物館）



アマミシカワガエルとゾウとシカの化石の展示
（種子島開発総合センター「鉄砲館」）

第14回 特別展 現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—

を紹介するもので、ゾウの他、シカ、アマミシカワガエル、カニ、エビ、魚、現在では台湾の標高千メートルを超える山地にしか自生していない植物など極めて保存の良い化石を多数展示するとともに、更新世の種子島と周辺域の現代とは異なる古環境ならびに生物地理学的意義について解説した。3カ所を巡回して会期が1ヶ月半に及んだこともあって入場者数は例年よりも多く、3,540名に達した。鹿児島県立博物館での展示期間の後半に隣接する鹿児島市中央公民館で開催された地質情報展2014かごしま「火山がおりなす自然の恵み」（産業技術総合研究所地質調査総合センター・日本地質学会）に来場した市民が立ち寄ったことも大きかったようである。

5. その他の活動

(1) 企画展 鹿児島県の魚を調査する～海にはどんな魚がすんでいるの?～ 鹿児島大学総合研究博物館・かごしま水族館共催

10月10日から11月30日にかけて、かごしま水族館で開催された。鹿児島大学総合研究博物館で実施されている魚類調査の意義、方法からその成果までをレプリカや標本、生体、パネルを用いて展示するとともに、水族館が実施している定置網入網魚種調査の様子が紹介された。

(2) 特別講演会 海のナマズ「ゴンズイ」の超能力 鹿児島大学総合研究博物館・かごしま水族館共催

9月13日、鹿児島大学理事の清原貞夫氏をお招きし、かごしま水族館で開催された。清原氏が30年間研究をされているゴンズイについて、飼育・実験をとおして明らかになった、脳や感覚、行動について分かりやすく紹介して頂いた。

(3) International Seminar of Biodiversity

西スマトラ州にあるアンダラス大学は、インドネシアでは5番目に古い大学で1955年に設立された。鹿児島大学とは1980年代から熱帯林の調査で共同研究を行っていた。2003年12月に学术交流協定を結んでからますます交流が盛んになり、毎年数名が鹿児島からアンダラスを訪問したり、アンダラスから鹿児島に迎えたりしている。2014年の夏にはアンダラス大学の約10名の教員が、鹿児島大学を数日間訪問したいという要望があり、折角の機会なので、博物館と国際事業課が共同で国際セミナーを9月1日に開催することにした。学長や研究担当理事を表敬訪問した後、連合農学研究棟3階の大会議室で午前10時半に始め、昼食をはさんで3時半まで行った。下のプログラムのよりに鹿児島大教員4名とアンダラス大教員5名により合計9件の講演があった。



企画展 鹿児島県の魚を調査する



特別講演会 海のナマズ「ゴンズイ」の超能力



International Seminar of Biodiversity

- 1: Biopesticides of *Elettariopsis slahmong* and *Cimhopogon nardus* against. (Nasril Nasir, Microbiology, Andalas Univ.)
- 2: *Trigona minangkabau* the vector of Blood Disease Bacterium on banana in Indonesia (Anthoni Agustien, Microbiology, Andalas Univ.)
- 3: Transition in *Frankia* population during revegetation after a landslide at Mt. Ontake. (Kenichi Kucho, Microbiology, Kagoshima Univ.)
- 4: Ant Species (Hymenoptera: Formicidae) in Dragon Fruit Plantations (*Hylocereus* spp.) of West Sumatera, Indonesia. (Dr. Henny Herwina, Entomology, Andalas Univ.)
- 5: Laboratory adaptation of mating behavior in the sweet potato weevil. (Takashi Kuriwada, Entomology, Kagoshima Univ.)
- 6: Geographic Variation of *Puntius lateristriga* (C.V) From Sumatra and Adjacent Island. (Dewi Imelda, Animal Genetics, Andalas Univ.)
- 7: Mating strategies of Japanese macaques. (Shiho Fujita, Animal Ecology, Kagoshima Univ.)
- 8: The change of tree diversity and carbon stock during three decades in Ulu Gadut, West Sumatra, Indonesia. (Erizal Mukhtar, Plant Ecology, Andalas Univ.)
- 9: Changes in permanent plots in tropical rainforests of Indonesia. (Eizi Suzuki, Plant Ecology, Kagoshima Univ.)

来鹿したアンダラス大のスタッフの大部分が理学部の生物学科の教員であったので、生物の話が中心となった。鹿児島大からは理学部、農学部そして教育学部の生物系教員が講演をした。生物の世界にもさまざまな分野があり、まず微生物の世界から講演が始まった。微生物には病原菌として問題になるものも多く、インドネシアではバナナに病気をもたらす微生物が大きな問題になっているようで、その現状や対策についての報告があった。鹿児島大学からは植物と共生して窒素固定をする菌類について分子生物学的な最先端の研究の紹介があった。アンダラス大では動物の生物地理学的な研究も盛んであり、アリや魚類に関する研究の紹介があった。鹿児島大からは昆虫を実験室で飼育し詳細な個体群研究を行った成果の報告があった。また、屋久島で猿の生活史を長年調べた成果についても報告された。最後には植物生態の研究成果として、アンダラス大で30年前から継続している調査区で見られた蓄積炭素量の変化について報告された。鹿児島大からは、インドネシア各地に設定した調査区での研究成果が報告された。数十名の聴衆も参加し、和やかな雰囲気でもシンポジウムを終えた。

4 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2014年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者数	235	486	249	275	165	200	124	384	75	55	63	179	2490
団体	124	151	49	39	0	77	41	104	22	4	9	16	636
一般	111	335	200	236	165	123	83	280	53	51	54	163	1854
開館日数	21	21	20	22	17	21	23	22	17	20	19	20	243

常設展示室 曜日別入館者数 2014年度

	火	火	水	水	木	木	金	金	土	土	日	日	月	月	合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計										
4月	70	32	54	13	0	18	0	26	0	22	0	0	0	0	124	111	235
5月	118	37	13	54	0	98	11	109	9	37	0	0	0	0	151	335	486
6月	32	55	0	23	0	86	0	20	17	16	0	0	0	0	49	200	249
7月	0	51	0	80	0	31	16	55	23	19	0	0	0	0	39	236	275
8月	0	60	0	41	0	34	0	19	0	6	0	0	0	5	0	165	165
9月	0	25	71	18	0	9	4	28	0	41	0	0	2	2	77	123	200
10月	0	9	38	21	3	25	0	11	0	17	0	0	0	0	41	83	124
11月	11	11	0	8	19	19	0	40	58	42	0	160	16	0	104	280	384
12月	0	4	0	20	0	13	22	14	0	2	0	0	0	0	22	53	75
1月	0	8	0	6	4	13	0	10	0	14	0	0	0	0	4	51	55
2月	3	16	0	8	6	8	0	16	0	6	0	0	0	0	9	54	63
3月	0	7	0	13	16	73	0	58	0	12	0	0	0	0	16	163	179
合計	234	315	176	305	48	427	53	406	107	234	0	160	18	7	636	1854	2490
	549		481		475		459		341		160		25		2490		

今年度の総入館者数は2490名で、昨年度に比べ461名増加している。一般210名、団体251名の増加で、ここ数年減少の一途を辿っていた団体利用も学内外ともに大きく増加した。

2. 利用・活用状況

大学関係では、4月の新入生オリエンテーションをはじめ、理学部・工学部・教育学部および共通教育の授業・実習のほか、教員免許状更新講習、学生課交流事業、留学生・海外研修生の施設見学などの利用があった。学外からの利用では、県内外の小・中・高等学校や自治体の社会教育講座受講者などからの団体利用が増えたほか、学内で大規模な学会が開催された時期にはとくに目立って利用が多かった。

・大学関係

- ・理学部地球環境科学科新入生オリエンテーション
- ・理学部地球環境科学科「地球環境科学Ⅱ」
- ・工学部建築学科新入生オリエンテーション
- ・工学部建築学科（1年）常設展示室実測実習
- ・工学部機械工学科（1年）フレッシュマンセミナー
- ・教育学部 博物館実習事前見学
- ・教育学部総合・共通講義「博物館各論」
- ・教育学部「鉱物学」
- ・教育学部 JICA 研修生見学
- ・教員免許状更新講習
- ・学生課ピア・サポート交流事業（九州大学・長崎大学）
- ・共通教育科目「博物館へのいざない」

・学外

- ・日本地質学会
- ・日本植生史学会
- ・日本生態学会
- ・精密工学会九州支部「鹿児島地方講演会」鹿児島大学ラボツアー
- ・文部科学省財務部視察
- ・大学機関別認証評価訪問調査
- ・カンボジア森林局
- ・タイ・カセサート大学
- ・インドネシア・アンダラス大学
- ・スロヴァキア農業大学
- ・台湾大学
- ・韓国木浦大学校
- ・雲南農業大学
- ・富山大学
- ・鹿児島国際大学
- ・宮崎県立北高等学校（SSH校）サイエンス科2年
- ・福岡県立山門高校理数コース
- ・池田学園高等部
- ・鹿児島市立黒神中学校 校外学習「桜島のジオサイト」
- ・附属小学校（3年）施設見学学習
- ・大崎町教育委員会社会教育講座受講生

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース温度(℃)	17.3	20.3	22.5	25.7	25.5	25.5	22.5	18.8	14.5	16.5	14.5	16.1	20.0
1階ケース湿度(%)	68.3	67.5	65.4	56.3	55.3	69.0	68.9	70.7	60.3	62.3	60.4	64.6	64.1
2階ケース温度(℃)	19.0	22.1	23.7	27.2	26.7	25.2	23.0	18.5	14.2	13.4	14.0	17.7	20.4
2階ケース湿度(%)	66.0	65.3	61.9	49.4	55.1	64.1	66.3	70.6	62.0	65.8	62.2	67.5	63.0

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 47名 女 38名 合計 85名

2) 年齢

小学生以下 3名 中学生 0名 高校生 2名 大学生 25名
上記以外の10代 1名 20歳代 9名 30歳代 12名 40歳代 15名
50歳代 12名 60歳代 3名 70歳以上 3名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 26名 鹿児島県内 5名 鹿児島県外 40名
大学関係者(学生・教職員) 14名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 28名 ホームページ 7名 授業・講座等 9名
ポスター 0名 人にすすめられて 21名 その他 20名 無回答 0名

5) 感想

大変よい 37名 よい 46名 どちらともいえない 2名
つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 0名

6) 感想・意見・要望等

アンケート 85件中 83件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「実物やさわることができる資料が多くて面白い」「建物が重厚で展示資料とともに歴史が感じられる」「展示はよくまとまっていて、わかりやすい」「英語の説明があるところがよかった」といったものが多く、展示内容については「大学構内に遺跡があることに驚いた」「火山や温泉・鉱物資源が多く、地層や土地の変化がダイナミックに起こったことが鹿児島の特徴としてよくわかる」「古い研究機器やノートなどがよく残されている」といった内容が多かった。

意見・要望としては、「場所が分かりにくい」「看板をもっと目立つようにしたほうがよい」「博物館の存在があまり知られていないと感じる」「外から見た感じが暗くて入りづらい印象だ」「スペースが狭いので限られたものしか見ることができないのが残念。展示の入替や特別展示などの企画をいろいろやってもらいたい」といった内容が多かった。ほかには「水産関係(化石ではなく)の展示をもっと見たい(鹿大生)」「閲覧用の本をもっと増やしてほしい(市内・20代)」「動植物の標本を見たかった。ニュースレターなど、希望者にはメーリングリストの配布があってもよいと思う(福岡県・30代)」「歴史的な機器類が使われていた頃の教科書や書籍などを一緒に閲覧できるとよい(宮城県・40代)」「金鉱床のマップが面白い。もっとPRして県内の小学生や観光客にもみてもらったらい(東京都・60代)」などがあった。

5. ボランティア活動

12月に学生ボランティア1名の協力を得て、屋上清掃を行った。桜島の降灰は思ったより少なかった

たが、隣接する植物園からの落ち葉がかなりたまっていた。バクチノキなどの樹木が屋上をなかば覆うように大きく成長しており、枝が太く伐採は困難なため、植物園の管理者に適切な管理をお願いした。

6. 常設展示室 展示品目録－ 2014 年度－ (2013 年度からの変更点)

展示交換

- ・ 神領 10 号墳出土資料 (須恵器台付壺・土師器高坏・蓋 ⇔ 盾持人埴輪) 貸出資料返却により展示
- ・ 神領 10 号墳出土資料 (盾持人埴輪および展示台 ⇔ 須恵器台付壺・土師器高坏・蓋) 「上野原縄文の森」特別展へ貸出
- ・ 神領 10 号墳出土資料 (小型甕・須恵器高坏 ⇔ 盾持人埴輪および展示台・筒型器台・壺) 貸出資料返却により展示

展示終了

- ・ 石製垂飾品・石匙 鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため

7. 桜島・錦江湾ジオパーク看板の設置

2013 年、日本ジオパークに加盟が認定された桜島・錦江湾ジオパークにおいて、常設展示室は鹿児島県の地形・地質環境を学べるジオサイトの一つとして位置付けられている。

その広報活動の一環として鹿児島市観光プロモーション課から、看板設置の打診があっ



桜島・錦江湾ジオパークの看板設置

た。学内で協議の結果、正門にある学内案内板の横に設置することとなった。

8. 常設展示室の課題

今年度は学内で大規模な学会の開催が重なり、団体見学の申し入れがあったり、会場に案内をおかせてもらったりと、主催者との連携も功を奏し、学会参加者の利用により入館者数が大きく伸びる結果となった。今後もこのような機会を積極的に活かし、利用促進をはかりたい。アンケートの意見・要望にもあるとおり、展示に関しては、おもに学内やリピーターの来館者から展示資料の入れ替えを望む声が多く聞かれた。また、展示室の存在が周知されていないことや、場所が不案内であることについては、キャンパス内の人の流れを考慮した誘導や積極的な広報への取り組みが必要である。

5 教育活動

1. 共通教育「博物館へのいざない」

総合研究博物館専任教員4人で担当する共通教育科目である。この講義では大学博物館の存在を紹介するとともに、その役割や意義について説明し、学習や研究における博物館の活用について理解を深めることを目的としている。また、学芸員資格や学芸員の仕事について知る博物館学入門の講義として位置づけている。授業は「鹿児島大学公開授業」としており、学生以外の受講者も手続きを行えば受講できるようになっている。2014年度は97名の受講生があった。

講義内容は下記のとおりである。

橋本達也

1. 博物館とは？－いろんな博物館－
2. 博物館学的に博物館を考える
3. 文化財保護と博物館

落合雪野

4. 民族植物学研究と博物館 1 フィールドワーク
5. 民族植物学研究と博物館 2 植物園とハーバリウム
6. 民族植物学研究と博物館 3 展覧会 1
7. 民族植物学研究と博物館 4 展覧会 2

本村浩之

8. 博物学の起源と動物の進化・分類学
9. 魚類分類学とフィールド調査
10. 鹿児島の魚類多様性
11. 魚類の多様性研究と博物館

鹿野和彦

12. 地球探検の記録：地質学と博物館（1）
13. 地球探検の記録：地質学と博物館（2）
14. 地球探検の記録：地質学と博物館（3）
15. 世界自然遺産、ジオパークとフィールドミュージアム

2. 博物館実習

鹿児島大学では法文学部、教育学部・理学部・農学部・水産学部において、博物館学芸員資格取得に関する博物館館務実習に関する単位を取得できる。総合研究博物館では、受け入れ館の都合に



博物館実習

より単位取得に必要な規定日に達しない実習生の日数を補うことを目的として、夏季休業中に実習を行っている。2014年度は、法文学部4名、理学部6名、農学部1名、水産学部2名の学生に対して考古学・地質学・民族植物学・魚類分類学・昆虫分類学に関する実習を行った。

7月14～16日、8月8日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の整理作業を行った。水産学部2名と法文学部1名の学生がおよそ30点の標本を登録した。(本村)

8月4日の博物館実習では、落合が担当し「植物標本とハーバリウムの役割」のテーマのもと、実習生4名が植物標本室において以下の活動をおこなった。

最初に、9時から約60分間のイントロダクションをおこなった。植物標本の学術資料としての意義や製作方法、ハーバリウムの役割や維持管理の方法について説明を受けた後、実習の手順と分担を確認した。ついで10時から昼食休憩をはさんで14時30分まで、標本室IとIIに2名ずつ分かれて、植物標本収納ケースに防虫蒸散剤を貼付する作業、植物標本収納ケースの埃を落とす作業と床面を清掃する作業をおこなった。14時30分から16時までは4名が集まって一日の活動を振り返り、気づいたことについてディスカッションした。実習生は、この実習を通じて、植物標本とハーバリウムについての理解を深めた。また、実務を進める上での基本姿勢（服装や持ち物の準備、作業の段取りをどうするか、他の作業者とどのように協働するか）について検討した。(落合)

8月5日は、鹿児島大学総合研究博物館第14回特別展「現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—」に出展予定の化石標本から一点を選び出して、解説パネルを作成する課題を与えた。実習生は、解説パネル作成上の注意点と考慮すべき点の指導を受けた後、標本の大きさに見合った大きさのパネルに化石の学名・和名、生態、特徴などを調べて記述し、また化石と近縁の現生種の写真を添えて解説パネルを作り上げた。解説の内容は中学生でも理解できる程度にまとめており、また、近縁の現生種の写真を添えることで、化石のイメージを具体的に伝えることに成功している。終始、熱心に取り組み、手際よくパネルを作り上げた点も高く評価できる。(鹿野)

8月6日は、橋本が担当し、写真整理を行った。総合研究博物館では岩切成郎名誉教授から寄贈いただいた1970～80年代を中心とする東南アジア、南太平洋地域の写真を所蔵しているが、未整理であるため、そのネガ・プリントの整理を行った。また、昭和29年奄美大島学術調査記録写真というアルバムから画像スキャンとデータ整理を行った。作業前には写真撮影に関する基礎知識、フィルム・画像データの有効性とその保存方法などに関する基礎的なレクチャーを行った。(橋本)

8月7日は福元が担当し、昆虫採集、標本作製、名前調べ、顕微鏡による観察まで、標本作製に関する一連の過程を行った。(福元)

3. 共通教育ボランティア論

2014年も共通教育授業科目「ボランティア論」受講者を受入れた。

後期1名の受講があり、体験実習を12月3日及び4日に実施した。福元が担当となり、12月3日の午後、常設展示室屋上の灰や落ち葉の除去作業を行った。4日の午後は博物館屋上の降り積もった灰や落ち葉の撤去作業をスタッフと一緒にやった。

4. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも免許状更新講習が開設された。免許状更新講習とは、教員免許状をもつ人に対して、文部科学大臣の認定を受けて大学などが開設する最新の知識技能の修得を目的とする講習である。

総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行い、2014年度は6月7日(土)に本村を講師として「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」が開講された。対象は小学校教諭と中学校・高等学校の理科教諭の合わせて13名。大航海時代から現代までの魚類コレクション構築の歴史を世界の博物館紹介を通して振り返るとともに、生物多様性を理解するための博物館コレクショ



インターンシップ

ンの役割を解説した。また、標本の重要性を踏まえたうえで、魚類標本の最新の作製・保存方法を紹介し、実際に液浸標本を作製した。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、後日、受講者13名全員が履修認定された。(本村)

7月25日(金)には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は18名、小学校・中学校(社会)・高等学校(地歴)を主な対象者として実施した。実際の受講者は小学校教諭の比率が高かった。講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明

し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには拓本実習を含んでいる。(橋本)

5. インターンシップ

2014年度は8月6日から8月8日に高校生(加治木高校)3名を受入れた。8月6日を橋本、7日を福元、8日を本村が担当した。

8月6日は橋本が担当で写真整理作業、8月7日は福元担当で昆虫標本の作製、8月8日は本村が担当で、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の整理作業を行った。いずれも博物館実習との合同作業を行った。

6 出版・広報

2014度の出版物は下記のとおりである。

ニュースレター 例年ニュースレターは3号の発行を基本としてきたが、本年は2冊の刊行となった。

ニュースレター No.36 は第14回特別展「現代によみがえる生き物たち－種子島にゾウがいた頃－」の展示解説を兼ねた記事からなっている。内容は以下の通り。全32ページ。

鹿野和彦 「特別展紹介」

大塚裕之 「1. 化石発掘の経緯」

鹿野和彦・内村公大 「2. 発掘地点の地層」

大塚裕之・鹿野和彦・内村公大 「3. 岩相層序と堆積物の起源」

大塚裕之 「4. ゾウ科の化石」、「5. シカ科の化石」、「8. 甲殻類化石」

大塚裕之・桑山龍 「6. アマミイシカワガエルの化石」

籾本美孝・大塚裕之 「7. 魚類化石」

小笠原憲四郎・大塚裕之 「9. 軟体動物化石」

植村和彦・鹿野和彦 「10. 植物化石」

鹿野和彦・内村公大・大塚裕之 「11. 形之山における増田層堆積期の古地理と古生物」

ニュースレター No.37 は、総合研究博物館スタッフ、兼務教員および総合研究博物館で研究している大学院生が最近の話題9編の原稿を執筆した。著者とタイトルは下記のとおりである。全26ページ。

上村 文 「昭和29(1954)年「奄美大島学術調査」記録写真」

大塚裕之 「石崎和彦コレクション」

落合雪野 「多民族を展示する－Traditional Arts and Ethnology Centre」

鈴木英治 「インドネシア・北スマトラ・レウサー山国立公園の植物調査」

澤田佳美 「熱帯雨林に混生する球果類の群落構造：標高・地質による変異」

鹿野和彦・内村公大 「その昔、始良カルデラは淡水湖だった：始良カルデラの環境変化」

小枝圭太 「東奔西走のハタンポ研究」

内村公大・鹿野和彦 「第14回自身体験ツアー 火砕流堆積物観察会「巨大噴火の謎を解く」開催報告」

橋本達也「盾持人人埴輪の展示台」

研究報告等 研究報告 No.8 として、富山県中央植物園の志内利明氏と堀田満氏（鹿児島大学名誉教授）の共著『トカラ地域植物目録』（全 368 ページ）を刊行した。これまで当館で刊行してきた、初島住彦『九州植物目録』、堀田満『奄美群島植物目録』に並ぶ植物目録シリーズである。

科研費研究の報告として、橋本達也『九州南部における古墳時代鉄器の基礎的研究』（全 83 ページ）を刊行している。

年報 毎年 1 冊、前年度分の年報を刊行している。本年は、年報 No.13、2013 年度分を刊行した。

ポスター・チラシ 第 14 回特別展にあわせて、展示案内用の B 2 版ポスター・A 4 版チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。

その他 google 社よりインドアビューのモデル施設としての導入打診があった。google マップから総合研究博物館内展示を閲覧できるようになり、また googole 検索にもかかりやすくなるという広報的なメリットを考え導入を決定した。実際のインドアビュー公開は 2015 年度 5 月に実施されている。かごしま文化情報センターから、鹿児島の情報冊子「かごしまアートナビ」およびホームページに情報掲載の打診があり、掲載を依頼した。

7 ボランティア活動

展示 第 14 回特別展「現代によみがえる生き物たち - 種子島にゾウがいた頃 -」（巡回展）の鹿児島大学附属図書館の展示で、博物館ボランティア 16 名が展示会場内の監視や受付の補助を行った。

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では 2006 年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の 4 つの要素から成る（詳しくは「総合研究博物館ニューズレター No. 16」と総合研究博物館出版「魚類標本の作製と管理マニュアル」を参照）。本年度は本学水産学部から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約 10000 標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約 40000 件の画像データベースを作成した。（本村）

考古学資料の整理 ボランティア 1 名により、神領 10 号墳より出土した埴輪の接合作業を継続的に行った。（橋本）

8 鹿児島バーチャル博物館の構築

「鹿児島バーチャル博物館」は、鹿児島大学総合研究博物館がホームページ上で公開してきた「フィールドミュージアム」の後継として Web 上での展示企画である。しかし、「フィールドミュージアム」がそうであったように、当面準備できる内容に限られることから、一般市民が鹿児島の自然や歴史、文化を検索する上で助けとなるような枠組みを構築して「フィールドガイド鹿児島」として公開することになった。現在、「鹿児島知的散策マップ」（岩松 暉 編著）などを資材にして、産業技術総合研究所地質調査総合センターや鹿児島県地学会などと連携して「フィールドガイド鹿児島」を試作している。

9 標本管理活動

1. 植物標本室

2014年度に、植物標本室とその収蔵標本にかかわる活動は次のとおりである。

研究者による利用については、東京大学総合研究博物館、鹿児島大学大学院理工学研究科、琉球大学、三重県レッドデータブック改訂委員会、京都大学大学院理学研究科の研究者のべ6名が当館での標本調査を行った。標本の貸出については、熟覧と撮影を目的とした依頼1件に対応した。また、標本の破壊を伴う調査を目的とした依頼2件があったが、これには対応しなかった。理由は、依頼標本点数が非常に多いこと、破壊を伴う調査については当館標本庫内で学芸員立会いのもとで実施することを原則にしているためである。さらに、種子標本の分譲依頼1件があったが、もともと収蔵していないため、対応しなかった。寄贈については、琉球大学、三重県レッドデータブック改訂委員会、神奈川県立生命の星地球博物館から文献の寄贈があった。

教育目的での利用については、共通教育科目「博物館へのいざない」と農学部「民族植物学」の受講者が植物標本室の見学をした。(落合)

2. 標本の整理・登録・利用

教育・研究史資料として下記のような寄贈があり、博物館資料として登録作業を進めている。

岩切成郎名誉教授から、1970～80年代を中心とするインドネシア等東南アジアにおける漁村調査写真など数多くの写真を寄贈いただいた。

故・内藤喬教授のご遺族より資料寄贈の申し出があり、まず現況確認をさせていただいた。その際、鹿児島に関わる絵はがきアルバムを1冊寄贈いただいた。他、内藤教授収集の茶道具などの受け入れについては引き続き検討する。

考古学者故・諏訪昭千代氏の麗子夫人より、諏訪氏の蔵書を寄贈いただいた。2006年に諏訪氏から所蔵考古資料を寄贈いただいております、その後、2012年に逝去されたためにご遺族から寄贈の申し出をいただいた。(橋本・福元)

< 標本・資料の活用状況 >

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
H26.4.1	神領10号墳出土製塩土器	12	熊本県宇土市教育委員会	調査研究
H26.4.1	高等農林学校顕微鏡、七高化学天秤、測量用コンパス	1	鹿児島大学総務部	鹿児島大学歴史展示室に展示
H26.9.25	桜島起源の火山灰層の写真	1	(株)JMC JTB フォトセンター	平成27年度『チャレンジ6年生』4月号付録「ポケットチャレンジ」※電子教材(専用端末)小学6年生向けの家庭学習教材(理科)における桜島の特集
H26.10.1	神領10号墳埋葬施設写真・盾持人埴輪頭部・全体写真	4	上野原縄文の森	企画展広報誌・展示パネルに掲載
H26.10.1	総合研究博物館常設展示室内風景	1	鹿児島大学理学部	鹿児島大学理学部紹介DVD作製
H26.10.23	神領10号墳盾持人埴輪・須恵器・土師器	22	上野原縄文の森	企画展「古墳時代のかごしま」展示、展示パネル等作成、広報誌等掲載
H26.10.30	神領10号墳須恵器	1式	奈良大学	調査研究
H26.12.16	岩石標本	3	指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ	平成26年度時遊館 COCCO はしむれ企画展「火山の恵みと黒潮交流」
H26.12.16	約27億年前の炭酸塩岩の柱状試料一式	1	東邦大学理学部学生	研究利用
H27.1.23	神領10号墳出土遺物・岡崎18号墳出土遺物	1式	国立歴史民俗博物館名誉教授	調査研究

3. 脊椎動物標本の利用状況

多種多様な種子島形之山産の脊椎動物化石を第14回特別展で公開した。種子島以外で公開されたのははじめてのことである。特に種子島では絶滅したアマミイシカワガエルの骨格標本は多くの注目を浴びた。公開された化石は保存状態が良くないものが多いため、第14回特別展を機に形之山産の化石の所蔵と管理について発掘した関係者の間で話し合うことになった。

その他の2014年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を下記に報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2014年4月	魚類	液浸標本	3	琉球大学	研究
2014年5月	魚類	筋肉組織	4	総合地球環境学研究所	研究
2014年5月	魚類	液浸標本	30	Hebrew University of Jerusalem, Israel	研究
2014年5月	魚類	液浸標本	1	香川大学	研究
2014年6月	魚類	液浸標本	34	University Malaysia Terengganu, Malaysia	研究
2014年6月	魚類	液浸標本	1	香川大学	研究
2014年6月	魚類	筋肉組織	6	Hebrew University of Jerusalem, Israel	研究
2014年6月	魚類	標本画像	4	朝日新聞	新聞
2014年6月	魚類	筋肉組織	1	琉球大学	研究
2014年6月	魚類	液浸標本	5	Pukyong National University, Korea	研究
2014年7月	魚類	標本画像	4	テレビ朝日	番組
2014年7月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2014年8月	魚類	液浸標本	1	高知大学	研究
2014年8月	魚類	標本画像	1	高知大学	研究
2014年9月	魚類	液浸標本	12	京都大学	研究
2014年9月	魚類	筋肉組織	12	京都大学	研究
2014年9月	魚類	液浸標本	2	三重大学	研究
2014年9月	魚類	標本画像	5	朝日新聞	新聞
2014年9月	魚類	標本画像	4	三重大学	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	152	かごしま水族館	展示
2014年10月	魚類	筋肉組織	4	九州大学	研究
2014年10月	魚類	筋肉組織	12	総合地球環境学研究所	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	12	総合地球環境学研究所	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2014年10月	魚類	標本画像	2	国立科学博物館	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	2	近畿大学	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	17	長尾自然環境財団	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	25	兵庫県立川西緑台高校	研究
2014年10月	魚類	筋肉組織	870	千葉県立中央博物館	研究
2014年10月	魚類	液浸標本	24	三重大学	研究
2014年10月	魚類	標本画像	120	三重大学	研究
2014年11月	魚類	液浸標本	4	北海道大学	研究
2014年11月	魚類	筋肉組織	4	国立科学博物館	研究
2014年12月	魚類	筋肉組織	1	広島大学	研究
2015年1月	魚類	液浸標本	6	兵庫県立川西緑台高校	研究
2015年1月	頭足類	液浸標本	4	国立科学博物館	研究
2015年2月	魚類	液浸標本	1	西海区水産研究所	研究
2015年2月	魚類	標本画像	10	南種子町観光課	立て看板
2015年2月	魚類	標本画像	7	鹿児島県立博物館	企画展
2015年2月	魚類	液浸標本	69	鹿児島県立博物館	企画展
2015年2月	魚類	液浸標本	16	総合地球環境学研究所	研究

10 2013年度 専任教員の活動業績

鹿野和彦 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」分担

2) 専門教育

理学部専門科目「堆積学」

理学部専門科目「地層学実験」分担

理学部専門科目「地球環境科学Ⅱ」分担

理学部専門科目「理学論」分担

大学院理工学研究科専門科目「火山堆積システム特論」

大学院理工学研究科専門科目「火山岩相解析特論」

3) その他

「博物館実習」分担

(2) 研究活動

1) 著書

鹿野和彦・内村公大, 第14回特別展「現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—」, 鹿児島大学総合研究博物館 News letter, 36号, p.1-32, 2014年08月.

2) 論文 (査読有)

鹿野和彦・金子信行・石塚 治・千葉とき子・柳沢幸雄, 隠岐諸島, 島前火山の始まりと活動期間, 火山, vol. 59, pp.77-88, 2014年6月.

内村公大・鹿野和彦・大木公彦, 南九州, 鹿児島リフトの第四系, 地質学雑誌, 120巻 補遺号, p.127-153, 2014年08月.

3) 論文 (査読無)

なし.

4) 学会発表

鹿野和彦, 東北日本, 男鹿半島における新生界層序の再検討と日本列島の形成過程, 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島).

鹿野和彦, 隠岐島前火山, 焼火山火砕丘の噴火機構, 日本火山学会2014年度秋季大会 (福岡)

鹿野和彦, 爆発的海底噴火の謎に迫る, 鹿児島県地学会2014年11月 (鹿児島)

5) その他

鹿野和彦・内村公大, その昔, 始良カルデラは淡水湖だった: 始良カルデラの環境変化, News letter, 鹿児島大学総合研究博物館, No.37, pp.4-8 (2015).

(3) 外部資金

科学技術研究費助成事業「爆発的水底噴火モデルの構築」

産業技術総合研究所地質情報研究部門陸域地質図プロジェクト「米子地域の地質」(分担)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職、委員等

日本地質学会第121年学術大会準備委員会委員

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

産業技術総合研究所地質情報研究部門客員研究員

産業技術総合研究所との共同研究「鹿児島バーチャル博物館の構築」

3) 国外研究者の研究指導・共同研究等

なし

4) その他

第14回鹿児島大学総合研究博物館特別展「現代によみがえる生き物たち—種子島にゾウがいた頃—」(鹿児島大学附属中央図書館:8月25日~8月30日、鹿児島県立博物館:9月4日~9月15日、種子島開発総合センター:9月26日~10月24日)企画

地質情報展ブース展示 (2014年9月13日—9月15日)

(5) 学内委員

国際島嶼教育研究センター 兼務教員
自然科学教育研究支援センター分析器施設部会委員
全学・科目別部会委員

(6) 調査研究

2014年5月16日、23日、30日 鹿児島市西之谷の地質調査
2014年6月14日 鹿児島市新島の地質調査
2014年7月17日 種子島の地質調査
2014年7月30日～7月31日 熊本県大矢野島の地質調査
2014年9月29日～10月3日 島根半島の地質調査
2015年1月20日 鹿児島市新島の地質調査
2015年1月19日、21日 鹿児島市坂元の調査
2015年2月27日 垂水市高峠の地質調査
2015年3月5日 えびのIC付近の地質調査
2015年3月13日 霧島市国分川原の地質調査
2015年3月16日～3月18日 島根半島の地質調査
2015年3月26日～3月31日 米子の地質調査

落合雪野 [准教授]

(1) 教育活動

1) 共通科目
共通教育科目「博物館へのいざない」担当
2) 専門教育
農学部科目「民族植物学」担当、農学研究科科目「民族植物学特論」担当
3) その他
博物館実習での指導

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読有）
Satoshi Yokoyama, Isao Hirota, Sota Tanaka, Yukino Ochiai, Eiji Nawata, Yasuyuki Kono, 2014. "A review of studies on swidden agriculture in Japan: Cropping system and disappearing process" TROPICS, 22(4):1-131.
落合雪野 2015「地域資源をめぐる対話—タナトラジャにおける〈ジュズダマ研究スタジオ〉展」高倉浩樹編著『展示する人類学—日本と異文化をつなぐ対話』昭和堂
2) 研究論文等（査読無）
落合雪野 2014「青花紙と友禅染—『消える』植物染料をめぐる』美しいキモノ 250:67-68.
3) 単行本
落合雪野・赤嶺淳著、クリスチャン・ダニエルス監修 2014『イモ・魚からみる東南アジア—インドネシア・マレーシア・フィリピンなど』小峰書店
落合雪野・白川千尋編著 2014『ものとくらしの植物誌—東南アジア大陸部から』臨川書店
落合雪野編著 2014『国境と少数民族』めこん
4) 口頭発表
落合雪野 2014「青花紙の文化誌—きものと浮世絵をささえる」あおばなフェスタ 2014 in みずの森、2014年7月29日草津市立水生植物園みずの森
5) 展示活動
Traditional Art and Ethnology Center（ルアンパバーン、ラオス）特別展示「家庭の主婦から文化の継承者へ—変化を続けるラオスと女性のものがたり」の日本語解説作成

(3) 外部資金

競争的外部資金（代表者：間接経費を含むもの）
平成 25-27 年度 科研費基盤研究 (C)(25360016)
「文化資源としての手工芸—東南アジア大陸部のプラント・マテリアルをめぐる実態と展望」

競争的外部資金（分担者：間接経費を含むもの）

平成 23-27 年度 科研費基盤研究 (A) (23251004) 「ユーラシア大陸辺境域とアジア海域の生態資源をめぐるエコポリティクスの地域間比較」(代表：山田勇京都大学名誉教授)

平成 25-28 年度 科研費基盤研究 (B) (25283008) 「生物資源のエコ・アイコン化と生態資源の観光資源化をめぐるポリティクス」(代表：赤嶺淳一橋大学大学院社会学研究科教授)

平成 26-29 年度 科研費基盤研究 (A) (26244053) 「アジア地域における布工芸品の生産・流通・消費をめぐる文化人類学的研究」(代表：中谷文美岡山大学大学院社会文化学研究科教授)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職、委員会委員等

鹿児島市文化財保護審議委員会委員

日本熱帯生態学会会計幹事

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

京都大学東南アジア研究所学外研究協力者

東京大学東洋文化研究所班研究員

ラオス国立大学社会科学部研究員

(5) 調査研究など

2014 年 6 月滋賀県愛荘町。近江上布に関する蚊帳と着物資料調査。

2014 年 7 月滋賀県草津市。青花紙生産農家における参与観察。

2014 年 8 月静岡県島田市。葛布製作の参与観察。

2014 年 9 月ミャンマー中部、東部。伝統染織と植物利用に関する現地調査。

2014 年 10 月ラオス北部。少数民族による繊維植物利用に関する現地調査。

2014 年 11 月京都府宮津市。上世屋集落における藤布製作の参与観察。

2014 年 11 月鹿児島県薩摩川内市。甑島の葛布と芙蓉布に関する資料調査。

2014 年 12 月ラオス北部。少数民族による繊維植物利用に関する現地調査。

2015 年 1 月沖縄県大宜味村など。染織産地の現状に関する現地調査。

2015 年 1 月タイ、チェンマイ市。5th ASEAN Traditional Textile Symposium への参加。クイーンシリキット植物園での標本調査。

2015 年 1 月鹿児島県奄美市、宇検村。芭蕉布製作への参与観察と資料調査。

橋本達也 [准教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」担当

共通教育科目「鹿児島探訪－考古－」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) 専門教育

教育学部「考古学概論」担当

3) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

(2) 研究活動

1) 著書

橋本達也 2014.8 『九州南部における古墳時代鉄器の基礎的研究』鹿児島大学総合研究博物館 全 83p (共著 三好裕太郎：1～15p、31～83p 橋本執筆)

橋本達也 2014.10 『古墳と続縄文文化』高志書院 全 308p (共著 藤沢敦ほか 11 名：「九州南部の古墳築造と南北周縁域の比較」29-44p 橋本執筆)

2) 研究論文 (査読なし)

橋本達也 2014.11 「古墳時代前期甲冑の形式・系譜・年代論」『前期古墳編年を再考する－広域編年再構築の試み－』

- 中四国前方後円墳研究会第17回研究集会発表要旨集・資料集 中四国前方後円墳研究会 91~99p
- 橋本達也 2015.2「小松島市田浦出土甲冑の再発見と子安観音古墳」『新居見遺跡・田浦遺跡発掘調査報告書』小松島市教育委員会調査報告書第1集 137-142p
- 橋本達也 2015.3「盾持人埴輪の展示台」『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter』No.37 鹿児島大学総合研究博物館 25p
- 3) 学会発表
- 橋本達也 2014.11.30「古墳時代前期甲冑の形式・系譜・年代論」『中四国前方後円墳研究会第17回研究集会 前期古墳編年を再考する—広域編年再構築の試み—』(出雲弥生の森博物館・出雲市)
- 4) その他
- 辻田淳一郎・橋本達也ほか14名 2015.3『山の神古墳の研究』九州大学人文科学研究院考古学研究室 111~122p、372~381p
- 橋本達也 2014.8「福島原子力災害と文化財レスキュー」『鹿児島大学アイソトープ実験施設ニュースレター』No.2 鹿児島大学自然科学教育研究支援センターアイソトープ実験施設 1~2p
- 橋本達也 2014.9「第19回東北・関東前方後円墳研究会 総合討論の記録「古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係」」『東北・関東前方後円墳研究会連絡誌』第37号 東北・関東前方後円墳研究会(小黒智久・相田泰臣・藤沢敦・滝沢規生・水沢幸一・日高慎・沢田敦) 1~13p

(3) 外部資金

競争的外部資金 研究代表者

科研費 基盤研究C.(一般). 2010年度~2014年度(2013年度から繰り越し). 「九州南部における古墳時代鉄器の基礎的研究」. 研究代表者.

科研費 基盤研究B(一般) 2014年度~2017年度予定. 「X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」. 研究代表者.

研究分担者

科研費 基盤研究A. 2011年度~2014年度. 「21世紀初頭における古墳時代歴史像の総括的提示とその国際発信」.(研究代表者・福永伸哉・大阪大学教授ほか6名との共同研究) 研究分担者.

科研費 基盤研究B. 2013年度~2016年度. 「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」(研究代表者・上野祥史・国立歴史民俗博物館准教授ほか9名との共同研究) 研究分担者

連携研究者

科研費 基盤研究B. 2011年度~2014年度. 「雄略朝」期前後における地域社会と人制に関する考古学的研究: 北部九州を中心に」.(研究代表者・辻田淳一郎・九州大学准教授ほか3名との共同研究) 連携研究者.

科研費 基盤研究C. 2012年度~2014年度. 「東アジアにおける小札甲の受容と展開 - 日本古代の甲冑を中心として - 」(研究代表者・塚本敏夫・元興寺文化財研究所ほか1名との共同研究) 連携研究者.

科研費以外

国立歴史民俗博物館 基幹共同研究. 2012年度~2014年度. 「東アジアにおける倭世界の実態」(上野祥史・国立歴史民俗博物館准教授ほか15名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

下北方地下式横穴第5号出土遺物再整理専門委員会委員

国立歴史民俗博物館共同研究員

2) 公開講座等講師

2015.1.25 「えびの市島内139号地下式横穴墓 調査報告会」えびの市教育委員会 えびの市文化ホール

3) 調査指導・協力

(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 立小野堀遺跡発掘調査指導

えびの市教育委員会 島内139号地下式横穴墓発掘調査指導・協力

宮崎市教育委員会 下北方5号地下式横穴墓整理報告指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

(6) 調査研究

2014年10月27日～2015年2月13日：島内139号地下式横穴墓（えびの市教育委員会）

2014年5月2日～5月6日 大韓民国 ペノルリ古墳資料調査および国立系州博物館天馬塚展見学(羅州東新大学・慶州) 科研費基盤研究B「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」(研究代表者・上野祥史)

2014年5月・8月、2015年2月：東京国立博物館円照寺墓山1号墳出土資料調査

2014年11月：国立歴史民俗博物館共同研究・群馬県域における古墳時代遺跡の資料調査

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」(前期)

2) 専門教育

水産学部学芸員取得課程「博物館実習事前事後指導」(前期)

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ I」(前期)

水産学研究科専門科目「リーディングコース I」(前期)

水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AII」(前期)

水産学研究科専門科目「修士論文研究」(前期・後期)

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ II」(後期)

水産学研究科専門科目「リーディングコース II」(後期)

水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AI」(後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

3) その他

博物館資料論 (前期)

教員免許状更新講習 (前期)

博物館実習 (前期)

博物館実習事前事後指導 (前期)

ボランティア論 (前期)

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

Kuriwa, K., S. N. Chiba, H. Motomura and K. Matsuura. 2014 (May). Phylogeography of Blacktip Grouper, *Epinephelus fasciatus* (Perciformes: Serranidae), and influence of the Kuroshio Current on cryptic lineages and genetic population structure. *Ichthyological Research*, 61: 361-374.

Okamoto, M., D. E. Stevenson and H. Motomura. 2014 (Sept.). First record of *Paracaristius maderensis* from the central North Pacific and a second specimen of *Platyberyx rhyton* (Perciformes: Caristiidae). *Biogeography*, 16: 23-29.

Matsunuma, M. and H. Motomura. 2014 (Nov.). A new species of scorpionfish, *Ebosia saya* (Scorpaenidae: Pteroinae), from the western Indian Ocean and notes on fresh coloration of *E. falcata*. *Ichthyological Research*, 62: 293-312.

Tashiro, S. and H. Motomura. 2014 (Nov.). The validity of *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) and a synopsis of species of *Helcogramma* from the Ryukyu Islands, southern Japan (Perciformes: Tripterygiidae). *Species Diversity*, 19: 97-110.

Motomura, H., M. Aizawa and H. Endo. 2014 (Nov.). *Sebastapistes perplexa*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from Japan. *Species Diversity*, 19: 133-139.

Matsunuma, M. and H. Motomura. 2014 (Dec.). *Pterois paucispinula*, a new species of lionfish (Scorpaenidae: Pteroinae) from the western Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, 62: 327-346.

Hata, H. and H. Motomura. 2015 (Mar.). A new species of anchovy, *Encrasicholina macrocephala* (Clupeiformes: Engraulidae), from the northwestern Indian Ocean. *Zootaxa*, 3941: 117-124.

2) 研究論文 (査読なし)

Matsunuma, M., S. Tashiro, U. B. Alama and H. Motomura. 2014 (Apr.: dated as 2013). First record of a unicornfish, *Naso tergus* (Perciformes: Acanthuridae), from the Philippines. *Memoirs of Faculty of Fisheries*

Kagoshima University, 62: 7-10.

- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2014 (May). 鹿児島県から得られたニシン科ヤマトミズン *Amblygaster leiogaster* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 19-23.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2014 (May). 鹿児島県本土から得られたトビウオ科チャバネトビウオ *Cypselurus spilonotopterus* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 25-28.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2014 (May). メバル科ホウズキ *Hozukius emblemarius* の奄美群島とトカラ列島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 29-33.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2014 (May). 屋久島から得られたハタ科魚類ヤマトトゲメギス *Aporops bilinearis* の分類学的再検討. *Nature of Kagoshima*, 40: 35-41.
- ジョン ビョル・本村浩之. 2014 (May). キントキダイ科キビレキントキ *Priacanthus zaiserae* の奄美大島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 43-46.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2014 (May). 鹿児島県から得られたクロサギ科ホソイトヒキサギ *Gerres macracanthus* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 47-52.
- 畑 晴陵・藤原恭司・高山真由美・本村浩之. 2014 (May). 鹿児島県から得られたイサキ科エリアアコシヨウダイ *Plectorhinchus schotaf* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 53-57.
- 藤原恭司・畑 晴陵・本村浩之. 2014 (May). 標本に基づく鹿児島県のイトヨリダイ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 40: 59-67.
- 田代郷国・高山真由美・本村浩之. 2014 (May). サクヤヒメジ *Upeneus itoui* (ヒメジ科) の種子島からの初記録を含む東アジアにおける分布状況と種子島から得られたヒメジ属の未同定個体. *Nature of Kagoshima*, 40: 69-74.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2014 (May). 鹿児島県から得られたサバ科ヨコシマサワラ *Scomberomorus commerson* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 75-79.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之. 2014 (May). 鹿児島県南九州市頰娃町番所鼻自然公園地先の魚類リスト. *Nature of Kagoshima*, 40: 81-94.

3) 著書

- 本村浩之. 2015 (Feb). 刺毒魚の分類と生態. Pp. 195-217. 松浦啓一・長島裕二(編), 毒魚の自然史. 毒の謎を追う. 北海道大学出版会, 札幌市.
- Motomura, H. 2015 (Mar.). Batrachoididae. Toadfishes, p. 26; Tetrarogidae. Waspfishes, p. 29; Synanceiidae. Stonefishes, p. 30; Echeneidae. Remoras, p. 42; Polynemidae. Threadfins, pp. 60-61; Sciaenidae. Croakers, pp. 62-64. In: Kimura S., A. Arshad, H. Imamura and M. A. Ghaffar (eds.) Fishes of the northwestern Johor Strait, Peninsular Malaysia. Universiti Putra Malaysia Press, Serdang and Mie University, Tsu.
- Motomura, H. and K. Shibukawa 2015 (Mar.). Haemulidae. Sweetlips (Grunts), pp. 54-56; Lethrinidae. Emperors, p. 59. In: Kimura S., A. Arshad, H. Imamura and M. A. Ghaffar (eds.) Fishes of the northwestern Johor Strait, Peninsular Malaysia. Universiti Putra Malaysia Press, Serdang and Mie University, Tsu.
- Shibukawa, K. and H. Motomura. 2015 (Mar.). Nemipteridae. Threadfin Breams and Monocle Bream, pp. 57-58. In: Kimura S., A. Arshad, H. Imamura and M. A. Ghaffar (eds.) Fishes of the northwestern Johor Strait, Peninsular Malaysia. Universiti Putra Malaysia Press, Serdang and Mie University, Tsu.
- 本村浩之. 2015 (Mar.). 琉球列島の魚類多様性. Pp. 56-63. 日本生態学会(編), 南西諸島の生物多様性, その成立と保全. エコロジー講座 8. 南方新社, 鹿児島市.

4) その他の出版物

- 本村浩之. 2014 (July). 鹿児島島の魚類. かがしま探訪第 19 回. 鹿大ジャーナル, (195): 19.
- 本村浩之. 2015 (Mar.). フィールドこぼれ話. 未知の魚を求めて. 島嶼研だより, (69): 9.
- 小枝圭太・吉田朋弘・田代郷国・本村浩之. 2015 (Mar.). 種子島と屋久島の魚類相調査. 南太平洋海域調査研究報告, 56: 41-44.

5) 学会・シンポジウム等発表

- Motomura, H. 2014 (22-25 Apr.). Proposals for research and synthesis in Asian Core Project (2014-15): Biodiversity-fish. Asian Core Project Workshop - Towards Synthesis and Future Collaboration -. 9th IOC/WESTPAC International Scientific Symposium. Sheraton Hotel, Nha Trang, Khanh Hoa, Vietnam.
- 大八木英夫・荒木祐二・Peou Hang・石川俊之・本村浩之・塚脇真二. 2014 (4-5 Oct.). カンボジア・世界遺産アンコール遺跡群とトンレサップ湖における水環境評価と地域住民. 2014 年度日本水文学会学術大会公開シンポジウム. 広島大学, 東広島市.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2014 (15-16 Nov.). 色彩保存標本 赤・黄系色彩保存研究. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2014 (15-16 Nov.). 西インド洋から得られたフサカサゴ科エボシカサゴ属の 1 未記載種. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 江口慶輔・本村浩之. 2014 (15-16 Nov.). 南九州と琉球列島における標本に基づくイトウダイ科アカマツカサ属

- 魚類相. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2014 (15-16 Nov.). カタクチイワシ科タイワンアキノコイワシ属の分類学的再検討. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 武藤望生・柿岡 諒・Muda, O.・Arnupapboon, S.・Phuttharaksa, K.・Gaje, A.・Cruz, R.・Alama, U.・Traifalgar, R. F.・Babaran, R.・武島弘彦・本村浩之・武藤文人・石川智士. 2014 (15-16 Nov.). 南シナ海におけるアジ科魚類 3 種の遺伝的集団構造. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2014 (15-16 Nov.). テンジクダイ科 *Rhabdamia* 属と *Verulux* 属の分類学的再検討. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 田代郷国・本村浩之. 2014 (15-16 Nov.). ヘビギンボ科ヘビギンボ属 *Enneapterygius philippinus* 類似種群の分類学的再検討. 第 47 回日本魚類学会年会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 本村浩之. 2014 (29 Nov.). 琉球列島の魚類多様性. 公開シンポジウム「黒潮と南日本の魚たち 黒潮はベルトコンベヤーか障壁か?」. 高知大学朝倉キャンパス・メディアの森 6 階, 高知市.
- Motomura, H. 2014 (10 Dec.). Introduction and activities of Fish Group under the Asian Core Program (JSPS). Symposium on Marine Fish Diversity in the Western Pacific Ocean. Institute of Marine Environment and Resources, Haiphong, Vietnam.
- Motomura, H. 2014 (10 Dec.). Fish species diversity in the northern Ryukyu Islands, Japan and the influence of the Kuroshio Current. Symposium on Marine Fish Diversity in the Western Pacific Ocean. Institute of Marine Environment and Resources, Haiphong, Vietnam.
- Matsuura, K., H. Motomura, and G2Fish members. 2014 (16-18 Dec.). Inventory study on marine fishes of Vietnam. MoE-UPM-JSPS (ACORE-COMSEA) Workshop on Integrative Research on Seagrass Ecosystems (IER) in Southeast Asia. Marine Science Center (COMAS), Universiti Putra Malaysia, Port Dickson, Negeri Sembilan, Malaysia.
- Ghaffar, M. A., A. Arshad, K. Matsuura, S. Kimura, H. Motomura, and G2Fish members. 2014 (16-18 Dec.). Interconnectivity of ichthyofaunal communities between the three biotopes of Western Straits of Johore, Malaysia. MoE-UPM-JSPS (ACORE-COMSEA) Workshop on Integrative Research on Seagrass Ecosystems (IER) in Southeast Asia. Marine Science Center (COMAS), Universiti Putra Malaysia, Port Dickson, Negeri Sembilan, Malaysia.
- 本村浩之. 2014 (20 Dec.). 鹿児島島の魚—その多様性と特異性—. 始良市歴史民俗資料館 ふるさと歴史講座. 始良公民館, 始良市.
- 本村浩之. 2015 (22 Mar.). 南西諸島における魚類多様性—新しい生物地理区境界線の発見. 第 18 回日本生態学会公開講演会「南西諸島の生物多様性、その成立と保全」. 第 62 回日本生態学会大会, 鹿児島大学郡元キャンパス, 鹿児島市.

(3) 外部資金

競争的外部資金 (代表)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (C)「汎世界分類群マツバラカサゴ属 (フサカサゴ科) の分類・生態学的研究」

競争的外部資金 (分担・連携)

日本学術振興会 アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A)「亜熱帯島嶼生態系における水陸境界域の生物多様性保全の研究」

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「黒潮の流路変動と屋久島周辺の魚類相: 海中の見えざる障壁を探る」

総合地球環境学研究所 一般共同研究「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上」

国立科学博物館 「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」

鹿児島大学 COC 事業「島嶼と火山を有する鹿児島島の地域再生プログラム」平成 26 年度地域志向教育研究経費「与論島における冬季出現魚類の多様性の解明」

(4) 社会貢献・学外活動

日本魚類学会 編集委員

日本魚類学会 評議員

日本魚類学会 学会賞選考委員

日本動物分類学会 英文誌編集委員長

日本生物地理学会 評議員

国際自然保護連合 種の保存委員 (珊瑚礁性魚類分野)

オーストラリア博物館客員研究員

総合地球環境学研究所共同研究員

第 9 回インド・太平洋魚類国際会議組織委員会 委員

インド・太平洋魚類国際会議 運営委員会 委員
マレーシア・トレンガヌ大学人事委員会 委員
鹿児島県自然愛護協会 理事
鹿児島県純心女子短期大学非常勤講師
かごしま水族館 評議員
屋久島学ソサエティ 運営委員
文部科学省科学技術政策研究所 専門調査員

(5) 学内委員等

企画・評価委員会 委員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 交流企画部会委員
国際島嶼教育研究センター 9分野 島嶼適応領域 島嶼教育分野担当
ピアサポート企画委員会 委員
薬品管理システムの運用に関する検討専門委員会 委員
学芸員資格科日委員会 委員
大学院連合農学研究科入試委員会 委員

(6) 主な調査研究

2014年4月20～27日：ベトナム・ニャチャン
2014年5月14～15日：国立科学博物館
2014年6月8～11日：大隅諸島・種子島
2014年6月13～16日：国立科学博物館
2014年6月22～25日：奄美群島・奄美大島
2014年7月24～30日：フィリピン・パナイ島
2014年8月5～6日：神奈川県立生命の星・地球博物館
2014年8月29～9月3日：トカラ列島・中之島
2014年9月16～22日：大隅諸島・種子島
2014年9月29～10月2日：奄美群島・徳之島
2014年11月13～17日：神奈川県立生命の星・地球博物館
2014年11月28～30日：高知大学
2014年12月1～2日：国立科学博物館
2014年12月8～16日：ベトナム・ハロン
2015年1月11～13日：国立科学博物館
2015年1月30～2月5日：横須賀市自然・人文博物館
2015年2月21～27日：フィリピン・パナイ島
2015年3月1～10日：フィジー
2015年3月13～19日：奄美群島・与論島

(7) 報道関係

2014年6月4日：与論の魚類697種紹介。鹿大総合研究博物館 図鑑発行、新種も掲載。南日本新聞
2014年6月4日：与論の魚類697種図鑑に。鹿大教授ら4年かけ刊行。国内初確認の5種も。朝日新聞
2014年6月29日：鹿大、「鹿児島ならでは」に活路。島ごとに魚類図鑑。朝日新聞
2014年8月23日：真夏の2夜連続！無人島0円生活。テレビ朝日，21:00～23:06（魚類の同定と解説）
2014年8月24日：真夏の2夜連続！無人島0円生活。テレビ朝日，20:30～23:10（魚類の同定と解説）
2014年9月23日：魚15種 県本土初確認。2種は生息域の南限更新。鹿児島の岩坪さん 番所鼻の海調査。朝日新聞
2014年11月2日：ダーウィンが来た！「凶暴魚ゴマモンガラ！体を張って大接近」。NHK，19:30～20:00（ゴマモンガラの生態について助言）
2014年12月25日：いきなり！黄金伝説。芸人サバイバル大賞2014。テレビ朝日，18:00～24:00（魚類の同定と解説）
2015年2月12日：いきなり！黄金伝説。テレビ朝日，19:00～19:54（魚類の同定と解説）
2015年2月22日：はやぶさ2 あの感動をもう一度～“宇宙に一番近い島”から見た新たな挑戦～。BS朝日，21:00～22:54（種子島の魚類相について）
2015年3月21日：深海のロストワールド。追跡！謎の古代魚。BSプレミアム，21:30～（深海魚の同定）

福元しげ子 [助手]

(1) 教育活動

その他

鹿児島大学法文学部開講の「博物館実習」の不足分を補う実習（1日）の補助を行った。

共通教育「ボランティア論」（後期）の体験実習を担当した。

インターンシップでの指導を8月に担当した。

(2) 研究活動

1) 出版物

その他の出版物

福元しげ子・Rijal Satria・前田拓哉・山根正気 . 2014 (May). 鹿児島県臥蛇島のアリ相. Nature of Kagoshima, 40 : 127- 131

福元しげ子. 2014 (May). Information 鹿児島大学総合研究博物館. Nature of Kagoshima 41 : 323- 325

2) 社会貢献・学外活動

2014.8.18 重富の森と錦江湾セミナー講師

3) 調査研究

2014年4月22日～24日：横当島のアリ類の調査（鹿児島郡十島村）

2014年4月26日：植物相およびアリ類の調査（鹿児島県伊佐市）

2014年5月8日～9日：硫黄島の放浪種のアリの調査（鹿児島県三島村）

2014年5月30日：宇治島のアリ類の調査（鹿児島県南さつま市）

2014年7月6日：白銀坂のアリ類の調査（鹿児島県始良市）

2014年8月25日～27日：諏訪之瀬島のアリ類の調査（鹿児島県十島村）

2014年10月8日～9日：請島のアリ類の調査（鹿児島県大島郡）

2014年10月25日：マングローブ林のアリ類の調査（鹿児島市喜入町）

2014年11月12日～13日：硫黄島の放浪種のアリの調査（鹿児島県三島村）

鹿児島大学総合研究博物館 第14回特別展 (巡回展)

現代によみがえる生き物たち —種子島にゾウがいた頃—

2014年

8月25日(月)～8月30日(土)

9:00～17:00 鹿児島大学附属中央図書館

9月4日(木)～9月15日(月)

9:00～17:00 鹿児島県立博物館

9月26日(金)～10月24日(金)

8:30～17:00 種子島開発総合センター「鉄砲館」

種子島の130万年前の地層から発掘されたゾウ、シカ、アマミイシカワガエル、カニ、エビ、魚のほか、現在では台湾の標高千メートルを超える山地にしか自生していない植物など、たくさんの化石がご覧いただけます。

シマイサキ



アマミイシカワガエル

新種 タネガシマニシン



台湾ブナ



ゾウの前肢骨



クロダイ

[入場無料]

鹿児島大学附属図書館へ入るには運転免許証などによる本人確認が必要です。

問合せ先

鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30

電話 099-285-8141 ファックス 099-285-7267

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

主催 鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島県立博物館、鹿児島県西之表市教育委員会

鹿児島大学総合研究博物館第19回研究交流会
災害と文化遺産3

2014年5月24日(土)

地震災害の歴史を読み解く

—地震考古学への招待—

寒川旭

産業技術総合研究所 客員研究員

鹿児島県内でみられる地震の痕跡
—火山噴火と連動して発生した大地震—

成尾英仁

鹿児島県立武岡高等学校 教諭

鹿児島大学郡元キャンパス
共通教育2号館1F
211号室 入場無料

13:30-14:10 成尾
14:10-14:15 休憩
14:15-15:30 寒川

鹿児島大学総合研究博物館

099-285-8141
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>



鹿児島大学総合研究博物館 第26回市民講座 ダイオウイカ、奇跡の遭遇

—トワイライトゾーンの海—

講師：倉持恒己(国立科学博物館・コレクションディレクター)

日時：2014年7月5日(土) 13:00-14:30

会場：鹿児島大学郡元キャンパス 共通教育棟2号館1F 211教室

参加無料
事前申込み不要

16世紀の大航海時代、海の怪物と恐れられていた謎の生き物クラークエンのモデルと言われるダイオウイカ。深海でのダイオウイカと人類との世界初遭遇という快挙に立ち会った研究者が奇跡の遭遇を紹介します。

問い合わせ：〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30 鹿児島大学総合研究博物館
Tel: 099-285-8141 | fax: 099-285-7267
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

画：高内裕賀

鹿児島大学総合研究博物館 第14回自然体験ツアー

火砕流堆積物観察会

巨大噴火の謎を解く



日時：2014年12月21日(日) 9:00-16:00

案内者：寒野和彦(鹿児島大学総合研究博物館教授)・内村公大(鹿児島大学総合研究博物館)

集合場所：鹿児島中央駅西口 バス乗り場 (JR九州ホテルとホテルアービックの間)

観察場所：霧島市岩戸〜春山原、国分川原シラス採掘場、上野原縄文の森展示館(順路未定)。

バスでの移動

参加費：大人1000円・中学生以下500円(保険料、入館料などを含む、中学生以下は保護者同伴、当日徴収)、弁当持参

注意事項：寒さ対策、少雨決行、大雨の場合は中止

応募方法：ハガキ、FAXまたは電子メールで参加予定者の氏名・年齢(人数分)、電話番号、FAXまたは電子メールアドレスを記入の上、下記宛先までお申し込み下さい

応募締切：2014年12月17日(水) 16:00 必着

募集定員：20名(受付順)

※個人情報は、この企画の目的以外には使用いたしません。
※12月19日(金) 13:00までに定数から満席の場合にはご一報下さい
※天候等により、終了時刻が1時間ほど遅れる可能性があります
※添付メール対策のためにスマートフォンや携帯電話のメール設定でドメイン指定受信をされている方はメールが届かないことがあります

申し込み・問い合わせ先

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30 鹿児島大学総合研究博物館

電話：099-285-8140/8141 FAX：099-285-7267

電子メール：info@kaum.kagoshima-u.ac.jp



ハギレの日本文化誌、
時空をつなぐ布の力。

鹿児島大学総合研究博物館 第14回公開講座

端縫い

—境界を接ぐ—

2014.6.7 SAT 13:30-15:00 参加無料

鹿児島島の魚類相

最近の調査によって、鹿児島島では強大な黒潮とそれを取り巻く複雑な海流と南北に長い県土が海域ごとに固有の魚類相を創りだしていることが分かってきました。

鹿児島県内の海域には、出現する魚類の種組成から、①県本土北西部、②鹿児島湾、③県北西部と鹿児島湾を除く県本土+三島+種子島、④屋久島～奄美群島の4つの特異的な魚類相区があることが明らかになりました。

さらに、南日本の魚類相を2分する大きな分布の境界線が「屋久島」と「硫黄島・竹島・種子島」の間にあることが分かりました。トカラ列島に位置する生物地理境界線である渡瀬線がこれまで魚類においても有効であると考えられていましたが、ここ数年の調査によって魚類にとってより影響力が強い境界線が屋久島北部にあることが分かったのです。今後、さらなる調査によってより詳しい鹿児島島の魚類多様性が明らかになると期待されています。

①鹿児島県本土北西部

この海域には温帯系の魚が生息しています。ここでみられる多くの種は、北海道から鹿児島県北西部までを分布域とし、鹿児島県南部ではみられません。ここでは冬季の水温が16℃を上回らない環境です。南方系の魚は寒すぎて越冬できないと考えられています。



クサウオ



ハオコセ



ホシガレイ

②鹿児島湾

急深で半閉鎖的な水域のため、特異的な魚類相がみられます。湾外では水深1,000 mに生息する魚が湾内では20 mで漁獲されている例もあります。鹿児島湾の固有種はいないと思われませんが、湾外ではほとんど確認されていない魚も多く生息しています。



アカオビハナダイ



モモイロカグヤハゼ



カコカマス

①と②を除く県本土・三島・種子島

鹿児島県本土や三島村（硫黄島や竹島）、種子島にはウツボやオニカサゴ、カサゴ、オキゴンベなどがよく普通に生息しています。しかし、同海域はこれらの魚にとって日本国内における分布の南限です。屋久島やトカラ列島以南の琉球列島には出現しません。



ウツボ



カサゴ



オキゴンベ

屋久島～奄美群島

屋久島から奄美群島にかけての海域には多くの島嶼があり、島ごとに特徴的な魚類相を示します。しかし、左の3つの海域間の相違と比べると、それほど大きな違いではありません。多様な環境がある奄美大島には1600種を超える魚が生息すると考えられています。



ナンヨウアゴナシ



カタグロホホスジモチノウオ

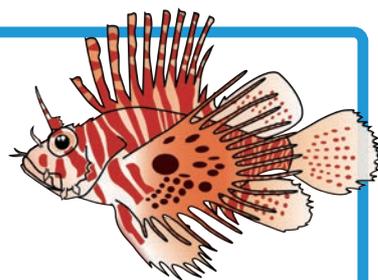


ヨダレカケ

屋久島の魚たち

鹿児島大学総合研究博物館では、鹿児島県魚類多様性調査プロジェクトの一環として鹿児島海域の魚類相調査を行っています。2008～2010年には屋久島の調査を行い、同島から標本に基づく初記録424種を含む1001種を報告しました。

屋久島調査で得られた標本に基づき、新しい名前が付けられた魚を紹介します。



ミズヒキミノカサゴ
Pterois mombasae

鹿児島では屋久島のみから記録されています。2011年に日本初記録として報告されました。胸鰭条の赤と白の縞模様を祝儀袋の飾り付け（赤白の水引）にたとえて命名されました。



ハダカリユウキュウイタチウオ
Alionemachthys piger

リュウキュウイタチウオの近縁種で、えらぶたにウロコがないことから「ハダカ」と命名されました。



アカフジテンジクダイ
Apogon crassiceps

昼間は岩陰に隠れています。生きている時は体が半透明ですが、死亡すると写真のように赤くなります。



シラヌイハタ
Epinephelus bontoides

体の斑点が不知火のようにみえることから、「シラヌイ」と命名されました。屋久島が分布の北限です。



チブルネッタイフサカサゴ
Parascorpaena aurita

屋久島以南に広く分布します。チブルは沖縄の方言で「頭」という意味。頭が大きいことから命名されました。



アツヒメサンゴカサゴ
Scorpaenodes quadrispinosus

国内では鹿児島からのみ確認されたことから「篤姫：あつひめ」、さらに近縁のヒメサンゴカサゴより体の幅が「厚い」ことが和名の由来です。



ブチフサカサゴ
Sebastapistes fowleri

2 cmほどで成熟する世界最小のフサカサゴです。「小さい」を意味するフランス語から命名されました。



ヤクシマキツネウオ
Pentapodus aureofasciatus

この魚の国内最大の繁殖海域が屋久島であることが分かりました。地元ではイカ釣りの餌として利用されています。



アケゴロモヘビギンボ
Enneapterygius hemimelas

体長2 cmほどの小さな魚です。写真は婚姻色を呈したオスで、メスはもっと地味な色彩をしています。

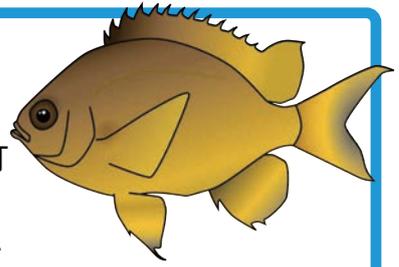


オボロゲタテガミカエルウオ
Cirripectes filamentosus

国内では屋久島産の1個体が知られているのみです。和名の「おぼろげ」は頭部の不明瞭な斑紋に由来します。

硫黄島・竹島の魚たち

2010～2011年に三島村周辺海域（硫黄島と竹島）における史上初の魚類調査が行われました。日本初記録種を含む414種が記録されました。この調査によって三島村の魚類相は、屋久島よりも鹿児島本土のそれと似ていることが明らかになりました。三島村調査で得られた標本に基づき、新しい名前が付けられた魚たちを紹介します。



イトヒキコハクハナダイ ♂
Pseudanthias rubrolineatus
竹島の水深60mから採集された標本に基づき命名されました。メスからオスへ性転換する魚です。



イトヒキコハクハナダイ ♀
Pseudanthias rubrolineatus
スジハナダイと似ていますが、尾びれの一部が糸状に伸びることで容易に区別可能です。



カメレオンタナバタメギス
Pseudoplesiops annae
体長2～3cmの小さい魚です。硫黄島から採集された標本に基づき命名されました。



ヒマワリスズメダイ
Chromis analis
硫黄島から採集された標本に基づき和名が提唱されました。琉球列島に広く分布しますが、硫黄島に特に多くみられます。



ヒスイスズメダイ
Chromis earina
北太平洋ではパラオと硫黄島からのみ標本が得られています。硫黄島の漁港沖に生息しています。



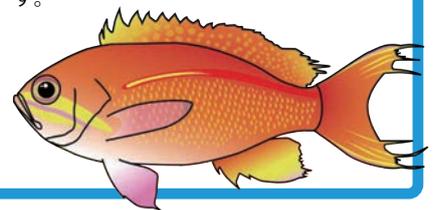
ヒスイスズメダイ
Chromis earina
硫黄島で撮影されたヒスイスズメダイです。体の中央よりやや後ろにうっすらとみえる白い帯が特徴です。



ベラ科の一種
Terelabrus sp.
三島村の他に高知県などでも生息が確認されていますが、国内から採集された標本はこの硫黄島産の1個体のみです。現在、鹿児島大学総合研究博物館で研究が行われています。小さく、美しい種です。

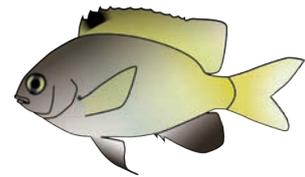
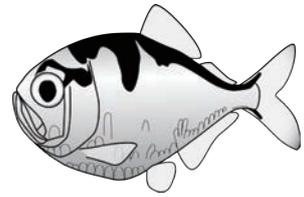


硫黄島の海
漁港から鉄分を含んだ水が流れ出ます。



与論島の魚たち

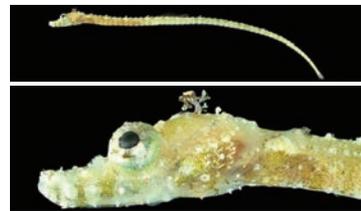
2011～2014年に奄美群島最南端の与論島における魚類調査が行われました。日本初記録種を含む702種が記録されました。この調査によって複数の新種もみつき、現在分類学的な研究が進められています。与論島調査で得られた標本に基づき、新しい名前が付けられた魚や珍しい魚を紹介します。



スズランヒメウツボ
Gymnothorax fuscomaculatus
最大全長 20 cm の小さなウツボ。口のまわりに鈴なりに並ぶ白色斑がスズランの語源です。



チュラブシホウネンエソ
Polyipnus ovatus
発光器が夜空の「美しい星」を連想させることから、与論島の方言で「チュラブシ」と命名されました。



ヒメトゲウミヤッコ
Halicampus spinirostris
国内では与論島と石垣島からそれぞれ1個体のみが確認されている珍しい種です。



フジナハナダイ
Plectranthias wheeleri
深海から釣り上げられたヤマブキハタの口の中から出てきました。日本初記録で、タンポポの古名の一つ「藤菜：フジナ」が語源です。



ヨロンスズメダイ
Stegastes insularis
南日本に広く分布しますが、与論島には特に多くの個体が生息しているため、ヨロンスズメダイと命名されました。



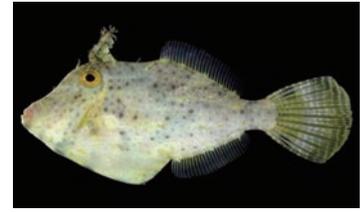
ヨロンスズメダイ
Stegastes insularis
ヨロンスズメダイはクリスマス島(東インド洋)と日本にのみ分布し、中間の海域では絶滅したと考えられています。



ヒメクロコバンハゼ
Gobiodon ater
体が一様に黒っぽいこと、小型種であることからヒメクロコバンハゼと命名されました。



アシナガシマイソハゼ
Trimmatom macropodus
体長 1 cm 程度の小さい種です。腹びれが長く伸びることから「アシナガ」と命名されました。



コクテンハギ
Pseudomonacanthus macrurus
国内では沖縄島から幼魚のみが記録されていましたが、与論島から初めて成魚が採集されました。

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum
No.14
2014

2016. 02. 29

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan

